市立病院と地域医療機関とのパートナーシップで高度な医療の実現をめざす

PARTNERSHIP

病院広報・医療連携誌
Vol.32
2020.1
鹿児島市立病院だより

特別企画 医療の質向上をめざす 地域連携総合評価

レポート
第8回 市民のための医療フォーラム
日常に多い自覚症状
～知っておこう！病気のサイン～

インタビューシリーズ5
柔軟かつ迅速な対応で先を見据えた病院運営
緒方康久事務局長

連載企画 市立病院×かかりつけ医
「鹿児島医療連携」最前線

TOPICS
高画質MRIの提供を実現
新型MRI装置導入へ
切れ目ない連携の実現
脳卒中ホットライン

柔軟かつ迅速な対応で先を見据えた病院運営

鹿児島市立病院 事務局長／**緒方　康久**

● INTERVIEWER／**谷村 祐子** 医療連携・入退院センター 看護師長

あらゆる面で進化を実感する6年ぶりの市立病院勤務

Q：市立病院での勤務は、２回目とお聞きしました

平成２３年４月から３年間、経営管理課長として在籍していました。坪内院長先生とは、院長に就任された平成２５年以来、６年ぶりにご一緒させていただくことになりました。

当時は新病院の建設工事とともに、７対１看護体制や電子カルテシステムなど、現在に引き継がれている制度が導入された時期でした。特に新病院建設は年間収益が１４０億円程度で推移する中、借入が２００億円を超える計画でしたので、経営面で多少の不安を感じていました。

Q：新しい市立病院の印象はいかがですか

こんなにも変われるものなのか、というのが率直な感想です。

当然ですが、外来、病棟ともに居心地が良くなっていますし、駐車場の待ち時間も大幅に改善されています。旧病院は迷路のようだと言われていましたが、だいぶ分かりやすくなっているのではないでしょうか。

また、医師や看護師等のスタッフを増員しながら、地域医療支援病院の承認やＤＰＣ特定病院群の指定とともに、診療科の充実やダヴィンチ、ＰＥＴ－ＣＴ等の高度医療機器の導入を進めるなど、病院機能も大幅に拡充されています。

さらに新規入院患者や手術件数の増加、平均在院日数の短縮等により、平成３０年度の病院事業収益は２１４億円と、当時の 1.5 倍になっています。少し細かい話になり恐縮ですが、減価償却費を１８億円計上した上で、経常収支が１億９千万円の経常利益となり、病院事業経営計画より２年前倒しでの黒字化を達成しました。私には想像すらできなかった数字です。

Q：１００点満点、言うことなしというところでしょうか

着任時はそう思っていました。しかし院長先生からご教示いただく中で、今後改善していく必要がある項目があることも認識してきているところです。

職員が一丸となった取組と地域医療機関との連携が基本

Q：そうした課題も含め、今後病院運営にどのように向き合っていかれますか

この間の成果は院長先生のもと、職員の皆さんが一丸となって取り組んでこられた結果だと思います。また地域の医療機関の皆様のご支援、ご協力がなければ達成できなかったものと思っています。そしてこの２つは、今後も病院運営の基本になるものと考えています。

人口減少、少子高齢化のほか、働き方改革等に関わるいわゆる三位一体改革など、医療を取り巻く状況は、今後大きく変わっていくことが想定されます。加えて技術革新のスピードもどんどん早くなるのではないかと思います。

そうした中で市立病院が高度急性期・急性期病院として、また県下の中核的医療機関として、その役割を担い続けるためには、院長先生が仰っているとおり、常に先を見据えながら様々な課題についてデータをもとに解析し、柔軟かつ迅速に対応していく必要があるものと考えています。

こうしたことを踏まえ微力ではありますが、院長先生のもと、少しでも市立病院のお役に立てるよう取り組んでまいりたいと考えています。

院長コラム

市立病院の昨年度診療実績

私の病院長職も早いもので2期7年目になりました。病院長に就任して大学病院に次ぐ規模の公的病院として、地域の皆様方と連携しながら高度急性期・急性期病院として高いレベルの救急医療・成育医療・がん診療を提供し、信頼される病院になりたいと思いました。そのため優秀な医師の確保と医療レベルの向上が最優先だと考え、さまざまな取り組みを行い、働きやすい職場づくりに努めました。今は有難いことに、大学病院の先生方にとっても、行きたくない病院から行きたい病院に変わったと聞いています。

今年も11月の市議会に前年度の決算を報告しました。平成30年度の診療実績は、平均在院日数11.7日、退院患者数14,832人、入院単価79,211円、外来単価25,148円、紹介率75.2%、逆紹介率98.7%、病床利用率89.6%、手術件数6,493件で、経常収益も約212億5千万円になりました。これらの指標は全国のトップクラスの病院に並ぶものです。

診療指標の向上は診療体制の充実の結果です。当院には24時間365日体制で、救急科、脳神経外科・内科、循環器内科、小児科、産婦人科、新生児内科、麻酔科、内科系および外科系医師が常駐し、消化器外科・内科、整形外科をはじめ多くの診療科が対応できる体制になっています。放射線技師、臨床検査技師、臨床工学士なども常時院内にいます。脳卒中、心筋梗塞、急性腹症などの救急疾患、産科・新生児・小児科救急に対応でき、がん診療も充実しています。私自身年齢を重ねて、医師としてだけでなく一市民として、いざという時に安心してかかれる病院が鹿児島市にあることは心強いことだと感じています。今後も患者様や皆様方にさらに満足していただける病院づくりを目指します。

坪内 博仁
病院長

TOPICS 1

診断に有用な高画質MRI画像を提供し、診療のさらなる充実をめざす

新型MRI装置の導入に向けて

瀬戸 和人 放射線技術科 科長

◀令和元年度内に導入予定の3TMRI装置

予約待ちの短縮を実現し 高画質MRI検査がさらに充実

日々の診療において放射線技術科からは診療科に対して多くの画像提供がなされていますが、その中でも現在２台のMRI装置（３テスラ/1.5テスラ）を使用し、約560名/月の検査を行いMRI画像を提供しています。

全診療科に対して予約制を基本として検査しておりますが、救急においては柔軟に対応しております。検査診療科としては、消化器内科、脳神経内科、小児科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、新生児内科、救急科などからの検査依頼が多いです。

検査内容においては、肝臓検査であるEOB/MRCP、脳梗塞をはじめとした脳神経系検査、脊髄検査、悪性腫瘍検査である様々な造影検査、婦人科系検査、泌尿器科系（腎臓・膀胱・前立腺）検査など多岐にわたります。

しかしながら、MRI検査の短所として検査の時間が長いという点があります。これまでは1日に行う検査数に制限があり、診療科また紹介病院に予約待ちをして頂くことになっておりました。そこでこの予約待ちの短縮を念頭において、３台目のMRI装置を令和元度内に導入するように決定しております。

そこで今回導入予定である3TMRI装置の特長をご紹介します。

1.フルデジタルコイルの採用によりノイズの影響を軽減し、画質の向上と短時間撮影が可能となります。

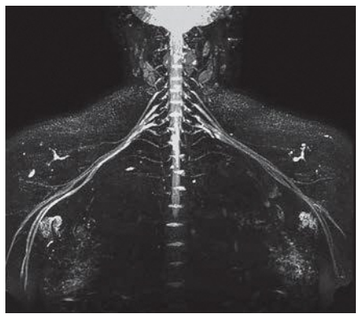
2.ワイドボアの採用や静音システムの導入により検査環境が改善されます。

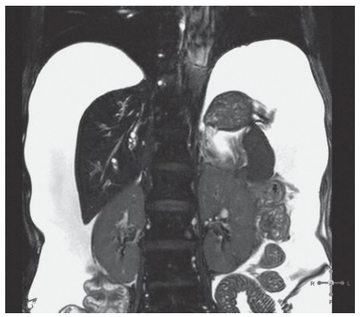
3.新技術であるMR　Elastograpy（肝臓の弾性計測法）が撮影可能となります。

以上によって、予約待ちの解消に向けた新装置の導入が診療の充実につながると考えております。今後もMRI検査部の充実に努力してまいります。

せと・かずと

血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師
放射線管理士
臨床実習指導教員
日本診療放射線技師会会員
日本放射線技術学会会員
九州循環器撮影研究会会員





TOPICS 2

脳卒中センターをもっと気軽に活用頂くために

脳卒中ホットラインを開設しています

西牟田 洋介 脳神経外科 科長

▶アンギオ室の様子

スムーズな連携で病院着から 手術終了まで約80分を実現

「市立病院は、手術の時は受け入れができないんですよね」

「電話をしても救急センターと脳神経外科と、何度も説明しないといけないんです」

「市立病院はお願いしづらい」

「重症でないと診てもらえないんですよね」

このような声をよく聞いていました。みなさま、すみません。今までご迷惑をおかけしていました。

このようなご紹介に関わる障害をなるべく無くしたいと考え、数年前より脳卒中ホットラインの活用を行なっております。脳卒中センターとダイレクトにつながる脳卒中ホットラインを利用することで①ご紹介施設や救急隊と、当院脳卒中センターとのスムーズな連携を行える②血栓回収やtPA静注などの超急性期脳梗塞治療の適応患者を見逃さず、短時間で治療を行えるなど非常に有効であることがわかりました。実際に救急隊や連携医療機関のご協力もあり、現在当院での血栓回収におきましては、病院着から手術終了まで約８０分程度（中央値）で終了しています。

今後も脳卒中を疑う患者（特に主幹動脈閉塞を疑う、つまり血栓回収の適応の可能性のある患者：FACE 2A score３以上）につきましては、スムーズな連携を行えるよう努力いたしますので、このホットラインを気軽にご活用ください。

もちろん手術中でもオンコール体制がありますし、軽症でも必ず診るようにいたします。私たちの気づいていない不備な点がございましたら、いつでも私宛にご連絡ください。改善するようにいたします。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

▶脳卒中ホットラインのPRカード

FACE2-AD score 3 点以上

F：顔面麻痺 Face
A：上肢麻痺 Arm
C：JCS3 以下 Consciousness
E2*：共同偏視 Eye deviation
A：心房細動 AF
D：拡張期血圧 85 未満 DBP　　*共同偏視のみ2点

主幹動脈閉塞症つまり**血管内治療の適応となる患者スクリーニング**のためのスコアです。あらゆる手段を考慮し、**短時間**でいける**血管内治療可能施設**を選択してください。
患者さんの予後は、あなたの選択にかかっています。

にしむた・ようすけ

日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脳卒中の外科学会
日本脳神経外科コングレス
日本脳神経血管内治療学会専門医
医学博士

医療の質向上をめざす

互いに切磋琢磨できる地域連携相互評価

谷口 里子 医療安全管理室

価値観や理念を踏まえて相互評価を行うシステム

2018年度から「医療安全対策地域連携加算」が新設されました。これは、自施設の医療安全対策の現状を他の施設と意見交換および相互評価をすることで、医療安全対策の標準化と地域の医療安全の推進を目指しています。相互評価は単に「良いか、悪いか」を評価するのではなく、「施設が大切にしている考えは何か」などの価値観・理念を踏まえ、施設が最善の行動を行っているかどうかを明らかにするものです。方法は、医療安全対策加算1の届出病院は、加算1医療機関間で相互評価を行い、医療安全対策加算2の届け出病院は加算1病院から評価を受けるというものです。今年度は、加算1病院は社会医療法人緑泉会米盛病院、加算2病院は昨年に引き続き玉水会病院と連携を取りました。今回は組織体制の評価も含め、各施設で特に取り組んでいるテーマを選定し評価を行いました。

玉水会病院では、「独自で開発したインシデント報告体制」の紹介があり、昨年度よりも報告件数が増え大きな成果を上げていました。米盛病院では、「全職員参加のチームステップス・BLSなど医療安全教育」を実施し、良好なチームワークの推進に取り組まれていました。

12月3日に米盛病院から10部門13名の代表の方々が来院され、「医療安全管理室と各部署における相互支援」をテーマに、書面審査と部署ラウンドを行っていただきました。各部署ラウンドでは、担当者がマニュアルに沿った医療安全活動やPDCAサイクルで改善した取り組み・遵守状況等、積極的にプレゼンテーションを行い活発な意見交換が行われました。その中で当院が見落としていた作業環境の問題点やマニュアルの使用状況の課題が明確にされ、多角的な視点から現場状況を確認することやマニュアルを見直す機会となりました。また、講評のなかで各部署と医療安全管理室との組織的な連携の強さを評価していただき、医療安全対策のさらなる職種横断的体制整備の原動力になるものでした。

▲市立病院での書面審査（上2枚）

▶米盛病院での院内ラウンド

▲院内ラウンドAコース／医療機器の中央管理（臨床工学科）

▲院内ラウンドBコース／転倒転落（看護6階北病棟）

情報交換し支え合うネットワークづくりに努める

地域連携相互評価を終えて、改めて当院の強みや今まで見えていなかった各部署の医療安全に対する取り組みを発見することとなりました。同時に各施設の様々な工夫や取り組みを共有し合えたことは、医療安全対策の標準化と地域の医療安全の推進のレベルアップにつながっていくと思いました。今回、米盛病院や玉水会病院の医療安全管理者とお互いに顔の見える関係で、リスクマネジメントを情報交換し支えあうネットワークができました。

今後も鹿児島県の中核病院として地域ネットワークの拡大に努め、切磋琢磨できる地域連携相互評価を目指していきたいと思います。

◀お礼を述べる坪内院長（左2枚）

令和元年度 鹿児島市立病院職員 優秀研究等表彰

令和2年1月6日（月）に令和元年度鹿児島市立病院職員 優秀研究等表彰式を行いました。受賞者及び表彰の対象となった研究・論文等は以下のとおりです。

▶授賞式の様子（右2枚）

部門	所属	氏名	研究・論文等名
医師	新生児内科	木　部　匡　哉	Lethal persistent pulmonary hypertension of the newborn in Bohring-Opitz syndrome
	消化器外科	吉　川　弘　太	自然発生性 parasitic leiomyoma の 2 例
看護	看護部5階北病棟	町　田　真由美	A病院における超重症児の自宅退院へ向けての取組み
	看護部皮膚科外来	永　田　富美子	終末期患者の瘻孔ケアにストーマ造設で疼痛緩和と QOL が改善できた一症例
	看護部救命救急センター	阿　部　嘉　晃	黒エリアの災害訓練における訓練時の課題 －参加者のメンタルケアに視点をおいた一考察－
医療技術	薬剤部	瀬戸口　　誠	腸管不全新生児におけるセレン欠乏・排泄コントロールへの介入
	薬剤部	櫻　井　雄一郎	糖尿病患者のがん化学療法施行時に発現した悪心・嘔吐に対しペロスピロン塩酸塩が奏功した症例
	臨床工学科	角　野　隆一郎	微生物培養検出シートを用いた冷温水槽の清浄度評価と管理法についての検討
	臨床工学科	黒　岩　拓　真	絶縁監視装置の警報発生に苦慮した事例
	臨床検査技術科	藤　垣　大　輔	当院で経験した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍（BPDCN）の一例
	臨床検査技術科	中　城　雄　輝	肝硬度と生化学検査の臨床検討
	放射線技術科	大河平　美　月	急性期脳梗塞に対する MRI-First の試み
	リハビリテーション技術科	宮　﨑　晋　宏	患者教育の質の向上を目指して～患者参加型多職種カンファレンスの取り組み～

日常に多い自覚症状～知っておこう！病気のサイン～

第8回 市民のための医療フォーラム

令和元年11月17日（日）に、「日常に多い自覚症状～知っておこう！病気のサイン～」と題して、5名の先生方による一般の方々を対象にした医療フォーラムが当院の多目的ホールで開催されました。

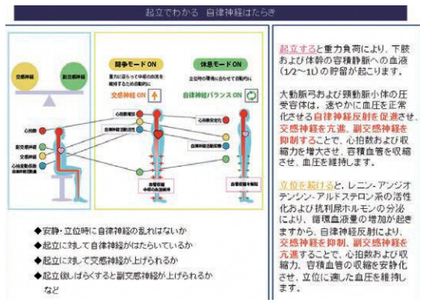
▲坪内病院長による挨拶

▲座長を務めた花牟禮副院長

講演1 ふらふら、手足のしびれ

●牧 美充 脳神経内科

ふらふらの原因の一つとして起立性脳血流低下が考えられます。自律神経は脳血流を保つように働くのですが、加齢、糖尿病、パーキンソン病のような自律神経障害があるとふらつきやすくなります。対策としては、水分・塩分の補給や弾性ストッキングの着用などが有効です。また、じっとしている時に強く感じ、動いている時に気が紛れるようなしびれは下肢静止不能症候群の可能性が高いので、病院を受診するようにして下さい。



まき・よしみつ

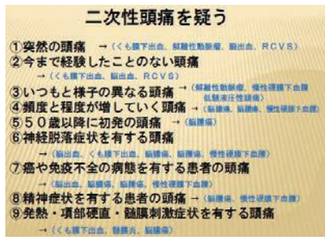
日本神経学会専門医／指導医
日本内科学会総合内科専門医／指導医

講演2 たかが頭痛、されど頭痛

●山田 正彦 脳神経外科

頭痛には、怖くない頭痛（一次性頭痛：頭痛そのものが病気の頭痛）と怖い頭痛（二次性頭痛：ほかの病気の症状として生ずる頭痛）があります。一次性頭痛では、片頭痛、緊張性頭痛、群発頭痛が代表的であり、片頭痛は冷やして安静にすることが重要であり、市販の鎮痛剤で収まらない場合には、特効薬であるトリプタン製剤を頭痛発作が始まってから、なるべく早く服用することが大原則です。緊張性頭痛には、温めが効果的で、入浴や散歩・運動などがお勧めです。

下記の頭痛のときには二次性頭痛を疑い、専門医療機関を受診して下さい。



やまだ・まさひこ

日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会
日本脳卒中の外科学会
日本脳神経外科コングレス
日本神経内視鏡学会技術認定医
日本神経内視鏡学会
医学博士

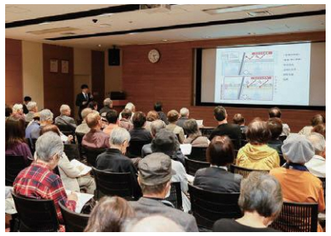
講演3 皮膚からわかる！みんなの健康

●馬場 淳徳 皮膚科

かゆみは①皮膚の乾燥、②皮膚疾患（湿疹、蕁麻疹、虫ささされ、痒疹など）、③内臓疾患（糖尿病　肝疾患、腎不全、癌など）が主な原因となり引き起こされます。皮膚の乾燥によるかゆみに対しては保湿剤の使用が効果的です。皮膚疾患に対するステロイド外用剤も用法、用量を守り適切な使用をすれば副作用がほとんどなく症状を改善させることができます。

皮膚についての正しい知識、理解を深めたい方は、毎年11月12日「ひふの日」に開催される関連行事にも参加してみてください。

11月12日は「ひふの日」



ばば・あつのり

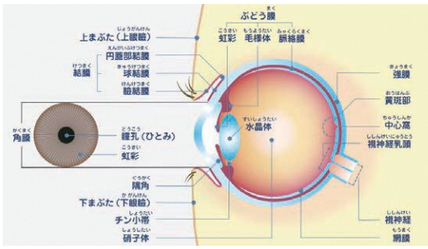
医学博士
日本皮膚科学会専門医
鹿児島大学皮膚科臨床准教授
日本アレルギー学会専門医
日本医師会認定産業医

講演4 視力低下、眼のかすみ

●有村 昇 眼科

視力低下と目のかすみの原因として、ドライアイと白内障は頻度の高い目の病気です。ドライアイは涙の異常による“眼の粘膜の肌荒れ”のようなもので、原因に合わせた適切な治療を行う必要があります。白内障の多くは加齢性のものですが、ステロイドや糖尿病なども関連します。治療は手術ですが、手術内容、治療後の見え方、合併症などについて担当医の先生とよく相談して決める必要があります。どんな時にどのような自覚症状があるかという患者さんの訴えが眼科診療を進める上でとても大切です。

眼の仕組み



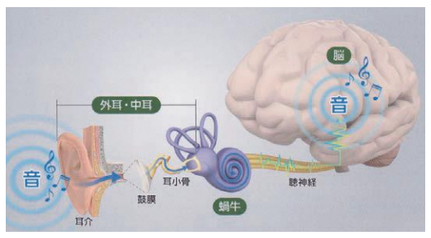
ありむら・のぼる

日本眼科学会専門医

講演5 耳鳴り、めまい

●花牟禮 豊 耳鼻咽喉科

耳鳴り、めまいには、放置できないものと家庭で治せるものがあります。耳鳴りは、急性発症で難聴を伴う場合にはすぐに耳鼻咽喉科受診が必要です。耳鳴発生のしくみを知り耳鳴りを正しく理解することで、注意を向けた脳の活動が弱まり、耳鳴りは治りやすくなります。難聴があれば補聴器で耳鳴りは改善し、静かな場所での耳鳴りは家庭での音響療法も可能です。めまいは多くの病態が含まれています。めまい以外の症状（頭痛、難聴、顔面麻痺、胸痛等）を伴う場合には病院受診が必要です。最も多いめまいは、良性発作性頭位めまい症（BPPV）です。三半規管の耳石異常で生じ、運動療法が有効です。めまいをBPPVかそれ以外のめまいかを区別することが重要です。



はなむれ・ゆたか

日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会認定医
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医／暫定指導医
日本がん治療認定機構がん治療認定医／指導責任者
鹿児島大学医学部臨床教授

市立病院×かかりつけ医「鹿児島医療連携」最前線

鹿児島市立病院では、地域の医療機関（かかりつけ医など）と相互に円滑な連携を はかりながら、患者さんが適切な医療を受けられるよう積極的に取り組んでいます。

CASE 01

上塘 正人 医師
鹿児島市立病院／産婦人科 部長
日本産科婦人科学会指導医・代議員／日本女性医学学会指導医／日本産周期新生児医学会 母体胎児暫定指導医・評議員／日本糖尿病妊婦学会評議員／日本妊婦高血圧症学会評議員／母体保護法指定医師／産科医療補償制度因分析委員／宮崎大学医学部非常勤講師／医学博士／日本産婦人科専門医／日本産科婦人科遺伝診療学会認定医／ALSO/PLS インストラクター

×

河野 哲志 医師
愛育病院／理事長
医療法人愛育会 理事長／産婦人科専門医／医学博士

全国に先駆けて医療連携がとれていた鹿児島

上塘　河野先生は以前当院にいらっしゃったのでよくご存知だと思いますが、鹿児島における産婦人科の医療連携はかなり前から浸透していると言えます。

河野　もう40年以上の歴史になりますよね。歴史に裏づけされた安心感・信頼感はやはり心強いです。当院の患者さんでも、切迫早産や妊娠高血圧症など母体がハイリスクの場合や未熟児で生まれそうな場合、貴院への転院をお願いすることになりますが、安心して患者さんをお任せすることができます。

上塘　それでもまれに予想がつかないリスクを伴うお産もあります。しかしそのようなケースでも当院の救急科や麻酔科、放射線科と連携をとることで、以前に比べてだいぶ救命率が上がりました。

河野　貴院にはドクターヘリがありますが出動されることはありますか？

上塘　救急医と新生児のドクター、そして産科の3人のドクターがヘリに乗り過疎地に行ったことが何度かあります。過疎地域におけるお産は、今後の鹿児島の大きな課題と考えています。

医師同士の深い交流が医療連携にもつながる

河野　ある程度、医療連携がとれている鹿児島ですが、今後はどのような展開を望まれていますか？

上塘　たとえば河野先生と私の場合、元々当院で一緒だったこともあるため、顔を見ずに電話で話すだけでも意思疎通がとれていると思うんです。「1聞けば10理解しあえる仲」という感じですよね。人となりを知っているというのは、とても大切なことだと思います。

河野　私も迷ったときは上塘先生に直接相談しますし、信頼している先生だからこその安心感があります。

上塘　ですので今後はもっと多くの先生方と交流を図っていきたいです。形式的なものではなく、心からの交流が医療連携にもつながっていくのではないでしょうか。

河野　私も当院から転院した患者さんのフィードバックをしてもらいつつ、さらにいろんな先生方と会って交流を深めていきたいです。

上塘　そうですね。今後も鹿児島の産婦人科をともに支えていきましょう。

医療法人愛育会
愛育病院

診療科目　産科・婦人科

■住所／鹿児島市小松原1丁目43-15
■TEL／099-268-0311
■URL／http://www.synapse.ne.jp/aiiku_hp/
■駐車場／80台
■アクセス／市電「上塩屋電停」から徒歩5分

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	／	／
14:00～18:00	○	／	○	／	○	／	／	／

CASE 02

鮫島 幸二 医師
鹿児島市立病院／小児科 部長
小児科専門医／指導医／鹿児島大学臨床教授／感染制御医（ICD）／医学博士

×

藤山 りか 医師
五反田内科クリニック／小児科
小児科専門医／医学博士

往診専門だからこそ子どもの小さな変化に気付ける

鮫島　貴院は往診専門という珍しい病院ですよね。

藤山　はい。外来で時間を取られることがない分、在宅医療に集中できるのが当院の特徴です。しかし在宅で子どもの具合が急変した場合、私にとっては市立病院だけが頼りなのでいつも本当に感謝しています。

鮫島　それはお互い様です。当院はどうしても急性期がメインになるので、その後の長期間におよぶ在宅医療をお一人でされている藤山先生には頭が下がる思いです。将来的には当院でも、予定入院などを通して患者さんの安定している状態を知ることがベストだと考えています。

藤山　病室の空き状況などの課題はクリアする必要があるでしょうが、子どもの普段の状態を知っていただく意味は大きいと思います。実際私も往診を始めてから分かったのですが、「ずっと診ているからこそ気付ける変化」って多いんです。だからこそ付きっきりで側にいるお母さんやお父さんこそが、一番の主治医だと感じることもあります。

子どもたちの家族まで守るのが小児科の仕事

鮫島　患者さんのご両親の話が出てきたので、将来的な目標としてもう一つ、「レスパイト」についても話しておきたいです。ご家族も24時間365日付きっきりだと本当に大変です。先ほどの予定入院をすることで、その間家族も少しは休めることができるのではないかと考えています。

藤山　私も同意見です。現在は、子どもの状態が安定しているときに預けられる病院がないので、安心して我が子を預けられる病院ができればと思います。

鮫島　往診される藤山先生なら、ご家族の大変な状況などが私よりもずっと分かるのではないですか？

藤山　確かに母親から悩みを相談されることは多いです。話を聞くことも含めて私の仕事だと思っています。理想論かもしれないですが、病気の子どもがいることで、家族が一つになれるようなお手伝いができたらと日々感じながら往診しています。

鮫島　そうなれば素晴らしいですね。今後も鹿児島の子どもたちの笑顔のために一緒にがんばりましょう。

医療法人 天翔会
五反田内科クリニック

診療科目　内科・小児科・皮膚科・眼科
在宅支援診察所 24時間対応

■住所／鹿児島市薬師2丁目7番62号
■TEL／099-259-2038
■URL／http://tenshokai.or.jp
■アクセス／市バス「鶴丸高校前」から徒歩約1分

ホームページ

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
外来(予約制) 9:00～11:30※1	○	○	○	○	○	／	／	／
訪問診療 11:00～18:00	○	○	○	○	○	※2	／	／

※1 急患はこの限りではありません
※2 訪問診療の土曜日の診療時間は9:00～13:00

病院広報・医療連携誌
PARTNERSHIP
鹿児島市立病院だより
Vol.32
2020.1

■発行日／2020年(令和2年)1月　■発行者／〒890-8760鹿児島市上荒田町37番1号 坪内博仁[鹿児島市立病院長(事業管理者)]　■担当者／医療連携室
■連絡先／TEL.099-230-7100　FAX.099-230-7101　http://www.kch.kagoshima.jp/

編集後記
Editor's notes

令和時代も二年目となり、新しい元号名もだいぶ耳に馴染んできました。今年最初の鹿児島市立病院だよりをお届けいたします。トピックスとして脳卒中ホットラインに関する記事を掲載しております。このホットラインは直接脳卒中センターの医師に連絡できますので、スムーズな連携が可能となり、治療成績の向上がみられております。ぜひ記事をご覧頂き、ご活用いただければ幸いです。今年は56年ぶりに東京オリンピックが開催され、暑い熱い夏になりそうです。また今年1年どうぞよろしくお願いいたします。